

群 教 セ	G02 - 02
	平 17.230集

マルチメディア資料集 「富士見村歴史探検隊」の作成

特別研修員 田村 学 (富士見村立時澤小学校)

〈研究の概要〉

本研究では、小学校の歴史学習に役立つ、富士見村の遺跡や文化財を素材としたマルチメディア資料集「富士見村歴史探検隊」を作成した。作成にあたっては時代別・校區別に遺跡や文化財を調べられるように構成を工夫し、児童が地域の遺跡や文化財に興味・関心を持ち日本の歴史と地域の歴史との関わりを考えられるようにした。本資料集の活用により、児童は地域の歴史に親しみ、歴史を身近に感じながら学習に取り組めるようになった。

キーワード 【社会 - 小 歴史 地域教材 富士見村 マルチメディア】

主題設定の理由

小学校の歴史学習では、歴史上の人物や遺跡・文化財を、資料などを活用して調べる学習を通して、日本の歴史や伝統を知り、それを慈しむ心情を身に付けていくことを目標としている。

本校6年生の歴史学習に対する意識を調査してみると、全児童の14.8%は「嫌い」と答えており、その理由として、「言葉や意味が分からない」「覚えられない」等の回答があった。また、「学習で難しいことは？」という質問には、「昔のものを見られない」「想像できない」等の回答があった。

教科書で学習する歴史は、日本全国の教材を取り上げているため、実際に見たり、実物に触れたりという実体験ができない。そのため児童は日本の歴史に興味・関心をもちづらい。また、日本の歴史と富士見村の歴史との関わりを考えられず、歴史を身近なものとして感じられないという現状がある。

富士見村には「横室の歌舞伎衣装」や「古墳公園」のような、教科書で取り扱っている教材に匹敵する、価値の高い遺跡や文化財が存在している。こういった地域教材は児童にとって親しみやすいものであり、実際に見たり、実物に触れたりする活動を通して、児童に歴史への興味・関心をもたせ、歴史を身近に感じさせることができる。しかし、これらの遺跡や文化財は、村内の広範囲に散在しており、これを集中して展示する資料館もないため、限られた授業時間の中で見学を行うことは難しい。

そこで本研究では、富士見村にある遺跡や文化

財を撮影したものを、静止画や動画にして、時代別・校區別にまとめ、コンピュータで表示することができる資料集を作成することとした。この資料集を活用することにより、児童は富士見村の遺跡や文化財に興味・関心を持ち、地域の歴史を身近に感じることができる。また、歴史学習の導入や各時代の学習で活用することにより、児童は日本の歴史と地域の歴史の関わりを考え、日本の歴史を身近なものとして歴史学習に取り組むことができるであろうと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

富士見村の遺跡や文化財を素材とし、児童が地域の歴史に興味・関心を持ち、日本の歴史と富士見村の歴史との関わりを考えさせながら学習に取り組ませることができる、マルチメディア資料集「富士見村歴史探検隊」を作成する。

研究の見通し

次のような手だてをとれば、児童に地域の歴史への興味・関心をもたせ、日本の歴史との関わりを考えさせながら学習に取り組ませることができる、マルチメディア資料集「富士見村歴史探検隊」を作成できるであろう。

富士見村の遺跡や文化財を、静止画や動画にして、時代別・校區別に調べられるようにする。

富士見村の遺跡や文化財を、日本の歴史年表の中で位置づけ、遺跡や文化財を調べながら日本の歴史との関わりを考えられるようにする。

研究の内容

1 マルチメディア資料集「富士見村歴史探検隊」の概要

本資料集は、小学校の歴史学習の導入や各時代の学習において、富士見村の遺跡や文化財を児童に調べさせ、地域の歴史に興味・関心をもたせるとともに、日本の歴史と富士見村の歴史との関わりを考えさせ、歴史を身近に感じさせることをねらいとし、以下の点をふまえて作成した。

教科書の学習内容に沿った、身近な地域にある遺跡や文化財を現地で取材し、撮影したものを静止画や動画にする。

遺跡や文化財ごとにWeb形式でまとめ、コンピュータで繰り返し調べられるようにする。

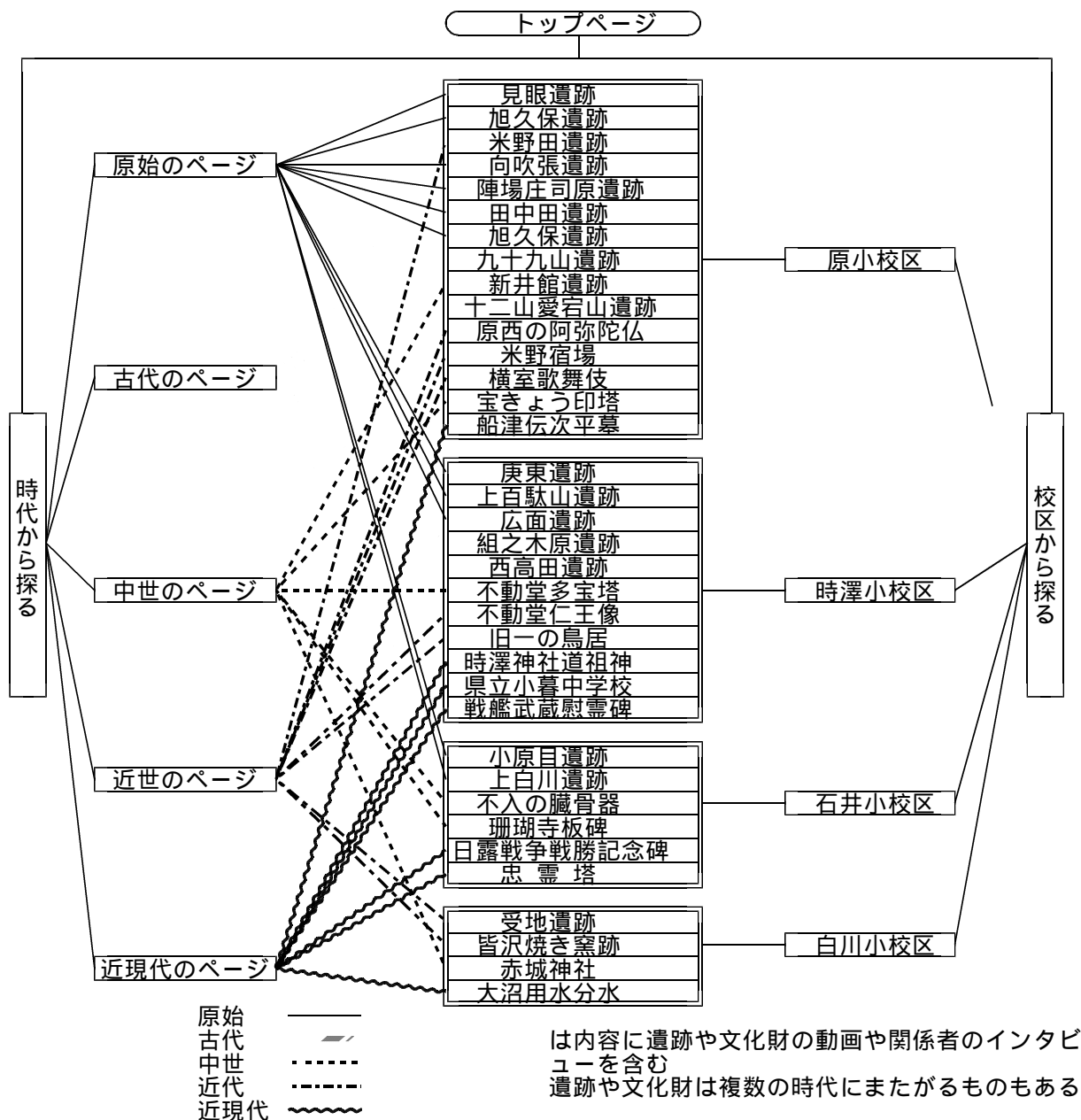
遺跡や文化財のリストを表示し、調べようとするものがあるかを判断できるようにする。

富士見村の遺跡や文化財を年表に位置づけ、日本の歴史と富士見村の歴史との関わりを考えられるようにする。

すべての遺跡や文化財の地図や写真をワークシートとして印刷できるようにし、興味をもった遺跡や文化財を見学するきっかけとなるようにする。

「時代から探る」と「校区から探る」の方法で調べられるよう構成を工夫する(図1)。

図1 マルチメディア資料集「富士見村の歴史探検隊」の構成



2 マルチメディア資料集「富士見村歴史探検隊」の内容

(1) トップページ

トップページには富士見村全体の写真が表示され、村内にある学校を表示して位置関係を確認できる。また、村の代表的な文化財を配して、村にはたくさんの遺跡や文化財があることを概観できるようにになっている(図2)。このページでは「時代から探る」「校区から探る」というボタンから、二つの方法で村内の遺跡や文化財の調べ方を児童が選択でき、クリックするとどちらかの方法のページが表示される。

(2) 「時代から探る」のページ

トップページから「時代から探る」を選択すると、「原始」「古代」「中世」「近世」「近現代」の、5つの時代区分を選択できるページが表示される(図3)。それぞれの区分には時代名を表示し、児童が時代の選択を迷うことがないようにした。調べたい時代名をクリックすると、その時代の遺跡や文化財を選択するページが表示される(図4)。

(3) 各時代の遺跡や文化財を選択する

各時代のページでは、富士見村の地図の中に遺跡や文化財の名前が表示され、名前をクリックすると、その遺跡や文化財を調べられるページが表示される。時代ごとにページを分けてあるため、児童は知りたい時代の遺跡や文化財を調べられる。右のフレームには、その時代を中心とした年表を表示し、富士見村の遺跡や文化財を年代の中に位置づけた。また、児童が同じ時代の別の遺跡や文化財を調べられるよう、年表の中の遺跡や文化財にも、その遺跡や文化財を調べるページに進めるリンクを設定した。

(4) 「校区から探る」のページ

トップページから「校区から探る」を選択すると、「原小校区」「時澤小学校区」「石井小学校区」「白川小学校区」の4つの校区を選択できるページが表示される。児童が調べたい校区をクリックすると、その校区の遺跡や文化財を選択するページが表示される(図5)。

(5) 各校区の遺跡や文化財を選択する

各校区のページでは、その校区の地図の中に遺跡や文化財の名前が表示され、名前をクリックすると、その遺跡や文化財を調べられるページが表示される。左側にはその校区にある遺跡や文化財のリストを表示してあり、調べたい遺跡や文化財があるか判断できる。

図2 トップページ



図3 「時代から探る」のページ



図4 各時代の遺跡や文化財を選択する



図5 各校区の遺跡や文化財を選択する



(6) 遺跡や文化財を調べる

各時代のページ、各校区のページの地図上にある、調べたい遺跡や文化財の名前をクリックすると、その遺跡や文化財を調べられるページが表示される(図6)。このページには、その遺跡や文化財を表す写真が表示される。写真は児童が興味・関心をもつことができるように、その一部を表示し、簡単に全体をとらえられないようにした。このページの右フレームにはその遺跡や文化財の時代を中心とした年表が表示される。これにより、「校区から探る」の方法で遺跡や文化財を調べても、日本の歴史と富士見村の歴史の関わりに気づかせることができる。

また、児童の興味・関心の広がりに対応できるよう、その時代の遺跡や文化財を選択するページ、時代選択のページ、校区選択のページに戻ることができる。

(7) より詳しく調べるために

遺跡や文化財紹介のページで表示されている写真をクリックすると、その全体が大きく別のウィンドウで表示される(図7)。また、「詳しく知りたい」のボタンをクリックすると解説(図8)が別のウィンドウで表示される。さらに、「歌舞伎を見る」や「お話を聞く」のボタンをクリックすると、その遺跡や文化財の雰囲気分かる動画や、関係者のインタビューが再生される。この別のウィンドウにある「とじる」のボタンをクリックすると、そのウィンドウだけが閉じられ、「印刷する」のボタンをクリックすると、そのウィンドウの写真や文章を印刷することができる。調べているうちに別のウィンドウがいくつも表示されないように、このウィンドウは自動的に5分後に閉じられるようにした。

(8) ワークシート

遺跡や文化財を紹介する各ページにある、「見学に行く!」というボタンをクリックすると、その遺跡や文化財の見学用ワークシート(図9)が表示される。

ワークシートはPDFで簡単に印刷でき、ページを見た感想、疑問に感じたことなどをまとめられる。また、休日など授業時間以外の見学に活用できるように、その遺跡や文化財の写真、地図、見学の計画、見学に行った感想をまとめられるようにしてある。地図には小学校や公共施設、店などを目印として表示し、児童が迷わないよう目印になる施設からの道順を矢印で示した。

図6 遺跡・文化財を調べる



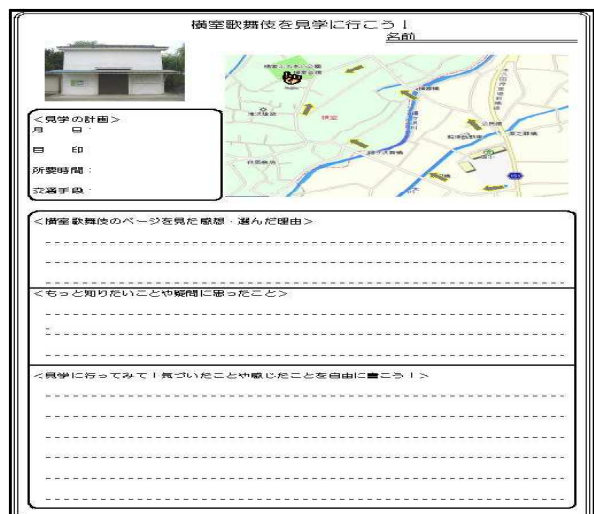
図7 横室歌舞伎衣装「牡丹の打掛」



図8 遺跡や文化財の解説



図9 ワークシートのページ



実践の結果と考察

1 授業実践計画

対 象 富士見村立時澤小学校 6年 36名
 単 元 名 江戸の文化をつくりあげた人々 (全10時間)
 単元の目標 富士見村に残る遺跡や文化財から、江戸時代の生活に興味・関心を持ち、江戸時代に安定した社会生活が営まれ、庶民の文化が発展したことが分かる。

単元計画

時	学習内容	指導上の留意点
地域の歴史	1 (本時) 江戸時代の様子を話し合い、本資料集を活用して江戸時代の村の遺跡や文化財を知る。 マルチメディア資料集「富士見村歴史探検隊」の活用 興味をもった村の遺跡や文化財についてまとめる。 見学の計画を立てる。	大名統制・身分制・キリスト教の禁止・鎖国など江戸時代の人々の暮らしを考えさせる。 コンピュータで本資料集の江戸時代のページを自由に閲覧させ、村の遺跡や文化財を知らせる。
	2 見学の結果をワークシートをもとに発表し、富士見村の江戸時代の様子を話し合う。	本資料集で遺跡や文化財を調べ見学の意欲をもたせる調べ学習の期間は土日を含むようにし、自発的に見学に行ける時間を確保する。 見学に行った児童の発表会を行い、江戸時代の富士見村の様子、日本の歴史についても概観させる。
日本の歴史	2 江戸時代に栄えた文化・学問を知り、興味をもった人物を選んで学習課題を設定する。	江戸時代に栄えた文化や学問、その発展に尽くした人物を紹介し、人物別に調べ学習の課題を設定させる。
	3 江戸時代に文化・学問を発展させた人々の業績を調べる。	図書室・コンピュータ室で効率よく調べ学習を行えるよう、江戸コーナーやリンク集によって調べさせる。
	2 調べたことを発表し江戸時代の人々の暮らしについて考える。	グループ内で、各自が調べた江戸の文化・学問を発表し、江戸時代の人々の暮らしをまとめる。

2 授業実践

日 時 10月19日(水) 4校時 コンピュータ室
 本時の目標 マルチメディア資料集「富士見村歴史探検隊」を活用し、興味をもった村の遺跡や文化財についてまとめ、見学の計画を立てることができる
 準 備 マルチメディア資料集「富士見村歴史探検隊」(各コンピュータにインストール) プロジェクタ・スクリーン

展 開

過程	学習内容	時間	指導上の留意点	評価の観点
つかむ	江戸時代の日本の様子を話し合い、人々の暮らしを考える。	5	江戸時代の様子を概観できる、大名行列・踏み絵・一揆などの静止画をプロジェクタで表示する。 江戸時代の日本の様子から、富士見村の様子についても考えさせる。	
追求する	コンピュータで「富士見村歴史探検隊」を起動し、富士見村に残る江戸時代の遺跡や文化財を知る。 興味をもった富士見村の遺跡や文化財についてまとめる。	30	「富士見村歴史探検隊」を活用させ、村の江戸時代の様子を物語る遺跡や文化財を調べさせる。 トップページから「時代別に探る」を選択させ、富士見村に残る江戸時代の遺跡や文化財について自由に閲覧させる。 富士見村にある遺跡や文化財で興味をもったもの、深く知りたいものを選び、その遺跡や文化財のワークシートを印刷させる。 選んだ遺跡や文化財について、資料集を見た感想や選んだ理由、もっと知りたいこと、疑問に思ったことをワークシートにまとめさせる。	深く知りたい遺跡や文化財を決めることができる。 感想や理由・疑問をまとめている。(ワークシート)
まとめる	見学の計画を立てる。	10	地図から見学地までの目印、所要時間、交通手段などを考えさせるとともに、見学時の注意を確認する。計画を立てさせる。	

3 結果と考察

本実践では、江戸時代の学習を振り返り、「江戸時代の富士見村はどんな様子だったのだろうか?」という課題を解決させるための導入として、本資料集を活用した。

児童は身近にあるものが江戸時代のものとなり、驚きの声を上げてじっくり見入っていた(図10)。そして、調べている遺跡や

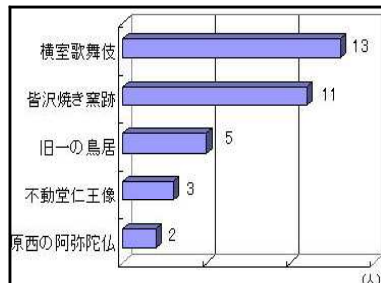
図10 資料集視聴の様子



文化財が、日本の歴史年表に位置づけられているのを見て、「これって徳川家光のころなの?」「このころ反乱が起きてたんだ」という声を聞くことができた。

江戸時代の遺跡や文化財の中から、興味のあるもの一つを選ぶように指示すると、「二つ選んでいいの?」といった質問もあり、全員が一つ以上の遺跡や文化財を選び、選んだ理由や見学のめあてを記述できた。いちばん多く児童に選ばれた遺跡や文化財は、「横室歌舞伎」であった(図11)。

図11 児童の選択状況

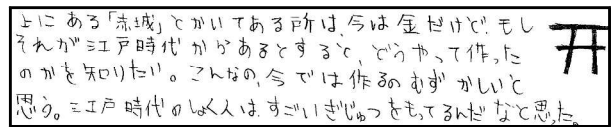


理由については、「歌舞伎を動画で見てもよかった」「衣装を見たい」等が挙げられ、動画の有効性が感じられた。

本資料集を活用することにより、児童は江戸時代の遺跡や文化財に興味・関心をもち、34人の児童が実際に見学を行った。また、そのうち6人は二度目の見学も行っている。江戸時代の遺跡や文化財を見たり、手で触れたりした児童は、見学後の感想で、「別の時代の遺跡や文化財を調べてみたい」「江戸時代のものだと思うと不思議だった」「どうして富士見村に作られたのだろう」という記述がみられ、地域の歴史に対する興味・関心の高まりが感じられた。また、「江戸時代の人々はすごい」「どうやって作ったのか知りたい」「これからも大切にしたい」「そんなに歴史があるものだとは知らなかった」という記述もみられ、児童が地域の遺跡や文化財を江戸時代のものとして

見つめ、身近なものとしての歴史を実感していることが分かった(図12)。

図12 旧一の鳥居を見学した児童の記述



本資料集を活用したクラスでは、「江戸時代の文化と学問」の学習で、「歌舞伎と近松門左衛門」を課題とした児童が25人にのぼった。昨年の同単元の学習では12人だったことから、児童は江戸時代の文化として、教科書でも歌舞伎が取り上げられていることに興味をもったことが分かった。また、学習後の感想では、「江戸と同じ歌舞伎が富士見村にあったのはすごい」「どうやって江戸から伝わったのだろう」等があげられており、日本の歴史と富士見村の歴史の関わりについて考えていることが分かった。

研究のまとめと今後の課題

1 まとめ

本研究を通して以下のことが明らかになった。

児童に身近な地域の遺跡や文化財を歴史学習の素材として取り上げることにより、児童は地域の歴史に興味・関心をもち、調べられるようになった。

教科書で取り上げている教材と対比できる、地域の遺跡や文化財を教材化したことにより、児童は日本の歴史と富士見村の歴史の関わりを考えられるようになった。

2 今後の課題

本資料集について、今後以下の課題を解決していく必要があると考える

時代・校区により遺跡や文化財の数に偏りがあるため、さらに教材化に適しているものを取り上げ、内容を充実させていく。

6年生だけではなく、地域の歴史を学習する4年生でも活用する場面・方法を探っていく。

<参考文献>

- ・『富士見村村誌』 富士見村役場(1954)
- ・『富士見村100年の歩み』 富士見村役場(1989)

(担当指導主事 齋藤 俊明)